よろくぶ通信

群馬県立玉村高等学校
発行日　２０２２．１．１１
第　５６　号
発行人　校長　高尾　博

１学年は、コロナ禍で受け入れ許可が出る企業が限られている中、上毛新聞印刷センターで企業見学をしました。その後、小江戸川越散策をし、歴史・文化・地理を学習してきました。

上毛新聞印刷センター

小江戸川越散策

２学年は、最大の学校行事、長崎修学旅行に無事行ってきました。天候にも恵まれ、平和学習では戦跡を訪ね、長崎の歴史と実情を自分の目と耳で確かめることができました。生徒は楽しい思い出とさまざまな体験・知識を持ち帰ることができたと思います。

平和講話

長崎平和公園

大浦天主堂

３学年は、マナーと表現Ⅱでの学習活動として、軽井沢１１３０ホテルでテーブルマナーを学びました。また、草津・軽井沢を散策し、地域の歴史と文化に触れることができました。

テーブルマナー

草津散策

＜新生徒会役員＞

会長	中山	歩美（２年）			
副会長	堀越	祇穏（２年）	副会長	下田	彩愛（２年）
書記	佐倉	悠人（２年）	書記	木暮	花怜（２年）
会計	今井	健太（１年）	会計	城間	弘明（１年）
会計監査	阿部	昴（１年）	会計監査	五十嵐	千尋（１年）

生徒会役員が決まり、新体制での活動が始まりました。地域に貢献できるように頑張ります！

二学期の学校行事

＜全体行事＞

８・９月　始業式
　　就職試験面接指導
１０月　開校記念式典
　　中間考査
　　インターンシップ・報告会
１１月　生徒会本部役員選挙
　　防火避難訓練
　　１学年企業見学・川越散策
　　２学年長崎修学旅行
　　３学年マナー研修
１２月　期末考査
　　生徒会本部役員就任式
　　球技大会
　　終業式
　　璞玉フェスタ

開校記念式典

インターンシップ報告会

生徒会役員就任式

球技大会

「開校記念式典式辞より」

校長　高尾　博

玉村高校は今年で創立 99 年目を迎えました。

本校は、大正 11 年に、実業教育や女子の中等教育に理解のある、原元太郎玉村町長さんの強い意向により、玉村実業補習学校女子部通年科として、今の玉村小学校の敷地に開校しました。その後、3 回の校種・名称変更を経て、昭和 23 年に群馬県立佐波農業高等学校玉村分校として町立から県立へ移管されました。昭和 27 年には、町長さんや町議会、学校が一丸となり活動した結果、現在の敷地に全面移転となり、昭和 34 年には群馬県立玉村高等学校として念願の独立を果たしたのです。開校から 26 年間の町立学校の時代はもちろん、県立高校になってからも、町長さんはじめ玉村町の関係者のご支援のおかげで現在の玉村高校があるのです。

本校の歴代所在地の歴史を調べると興味深いことがわかります。本校は、開校から 30 年間は、現在の玉村小学校の敷地内にありましたが、ここは、江戸時代初期に関東地方の治水と新田開発を任された江戸幕府の代官頭・伊奈忠次の屋敷があった場所です。また、現在の本校の敷地は、伊奈忠次の家臣・和田与六郎の屋敷があった場所です。

伊奈忠次と和田与六郎は、本校の歴代敷地を拠点に、高崎の江原源左衛門の協力を得て、5 年の歳月をかけ前橋の天狗岩用水を拡大・延長し、玉村町周辺の新田開発をすすめ、玉村町発展の基礎を築いた偉人です。玉村町の偉人 2 人の屋敷が、玉村町に育てられた本校の歴代敷地にあったことに、歴史のロマンと大きなゆかりを感じざるを得ません。

玉村町を中心とする地域社会のご支援のお陰で順調に発展してきた本校でありますが、実は、過去に2回、学校存続の危機がありました。

1回目の危機は戦後の学制改革の中で起こりました。他の旧制中学や女学校が新制高校へと変身していく中、町の財政難により、本校は昭和 21 年から募集を停止し、最後の卒業生が巣立った昭和 23 年 4 月 1 日、とうとう廃校となってしまったのです。募集停止となり、生徒や教職員が減少する中、残った先生方の学校再建の働きかけに町長さんはじめ玉村町の関係者が応えてくださり、本校は廃校の 6 か月後の昭和 23 年 10 月 1 日、群馬県立佐波農業高校玉村分校として見事に再建を果たしたのです。

2 回目の危機は、平成 17 年に訪れました。県教育委員会から本校に対して学校改革の強い要請と改革出来ない時の廃校の可能性への言及があったのです。町長さんはじめ町・町教育関係者、本校関係者からなる玉村高校活性化協議会が、地域に信頼され、期待され、貢献できる高校、地域の子供たちが自ら進んで志願する高校の実現にむけての学校改革の具体策を、3 年間かけてまとめ上げ、ついに 2 回目の廃校の危機を乗り越えたのです。

その学校改革の具体策が、読む、書く、発表する力を育成する学校設定教科「教養表現」の導入であり、この「教養表現」と「総合的な探究の時間」、「特別活動」の 3 分野が横断的に連動して、生徒の基礎基本、コミュニケーション力、進路選択力を育成するという「玉高チャレンジプラン」の策定であります。その後、本校は、13 年間にわたり「玉高チャレンジプラン」を進化・発展させることで学校改革を進め続け今に至るのです。

本校の歴代敷地に 400 年前に屋敷を構えた伊奈忠次と和田与六郎は、広大な荒れ地であったこの地に、何度も失敗しながらもあきらめず見事に滝川用水を引き、この地を一大穀倉地帯に変えたまさにチャレンジャーでした。開校 99 年目を迎えた今、玉村高校はそのチャレンジ精神と今までの伝統を受け継ぎつつ、地域社会に信頼され、期待され、貢献できる学校を目指して、さらに良く変わろうとしています。